

漢語自他両用動詞の「する」と「させる」に関する一考察

董尚

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

toxiosang814@gmail.com

1. はじめに

日本語の漢語動詞には一つの形で自動詞・他動詞の両方の働きを有する動詞、いわゆる自他両用動詞が多い。しかし、これら自他両用の漢語動詞はその形で他動詞の働きを有しながら、あえて「させる」という形で、他動詞文を作る場合もある。例えば、

- (1) a. 試合が中断した。
- b. 選手たちが試合を中断した。
- c. 選手たちが試合を中断させた。

「中断する」という形で充分であると思われるが、なぜ「させる」という使役を使うのだろうか。本研究では、自他両用漢語動詞の「する」と「させる」の使用環境及び漢語動詞の自他性との関係を考察したい。

2. 先行研究とその問題点

永澤（2007）は本来形態的な自他の区別がなかった漢語動詞が日本語として定着していくにしたがって自動詞専用化していく強い働きが見られると指摘している。「～する」が自動詞を基本とする場合には、「～させる」を利用することで他動詞としても使うことができる。

- (2) *人々を安心する。（「安心させる」の意で）

山田一美・山田勇人（2009）は自他両用動詞の他動詞文において「する」ではなく「させる」が使われる要因について考察した。その結果、「させる」が用いられるのは次の5つの場合であると論じている。

- ①自動詞寄りの自他両用の漢語動詞が他動詞として使われる場合

「完成する」→「完成させる」

- ②無生物主語の他動詞文の場合

- (3) **分子生物学**は**生氣論**を**撲滅させた**のか。

主語が無生物の場合、「～する」の形であると、無生物も主語になる場合が多い自動詞文と混同しやすい。この混同を防ぐために漢語サセル動詞が用いられると考えられる。

③修飾関係をはっきり示す場合

(4) 大統領時代に和平に取り組んだ中東紛争については、自身が1978年に実現させたキャンプデービッド合意の重要性を強調し、イスラエルとパレスチナ双方に自制を求めた。

- a. **自身が** (1978年に実現した) キャンプデービッド合意の重要性を**強調**
- b. (**自身が** 1978年に**実現した**) キャンプデービッド合意の重要性を**強調**

④動作に意志性を持たせる場合

(5) ○彼は戦災で家財を焼失した。
 *彼は戦災で家財を焼失させた。
 →○焼夷弾攻撃は日本の家屋を焼失させるよう工夫されていました。

⑤ヲ格をはっきり明示されていない場合

(6) 「事故は必ず撲滅させる」

金(2006)では、使役体系に基づいて漢語動詞の使役現象を検討し、「回復する」のように自動詞から他動詞が派生される動詞は「させ」形が操作使役に付与されると説明している。

a. 操作使役

単文構造 [s]
 被使役者: **対象**
 <太郎が花瓶を壊した>

} 不規則 → 語彙的使役

b. 直接使役

複文構造 [s [s]]
 被使役者: **動作主**
 <太郎が花子を止ませた>

} させ → 統語的使役

他動詞用法の方に制限が見られる両用動詞と自動詞用法の方に制限が見られる両用動詞について確認した。(7)のように他動詞用法に制限がある場合、「させる」形は直接使役の意味を表すことはできず、操作使役の意味を表す。また、(8)のように自動詞用法に制限がある場合、他動詞の「する」形が操作使役の意味を表し、他動詞文の使役表現である「させる」形が直接使役の意味を表している。しかし、(9)のような動詞は「させる」形が操作使役と直接使役の両方とも表すことが可能である。

- (7) a. 日本の出産率が増加した。
- b. *若い女性たちが日本の出産率を増加した。
- c. 若い女性たちが日本の出産率を増加させた。

- d. *日本政府が若い女性たちに日本の出産率を増加させた。
- (8) a. *パソコンが分解した。
b. 太郎がパソコンを分解した。
c. *太郎がパソコンを分解させた。
d. 花子が太郎にパソコンを分解させた。
- (9) a. エンジンが停止した。
b. 太郎がエンジンを停止した。
c. 太郎がエンジンを停止させた。
d. 花子が太郎にエンジンを停止させた。

先行研究では、漢語自他両用動詞の「する」と「させる」の相違点を形式上にとどまり、それぞれの使用傾向による相違点を明らかにされていない。自他両用漢語動詞の「を～する」と「を～させる」の使用実態を考察する必要があると思う。

3. 研究課題

本研究では、先行研究の問題点を踏まえながら、以下のことを研究課題とする。

- ① 日本語能力試験出題基準で1級までのレベルに含まれている二字漢語動詞を抽出し、BCCWJを用いたコーパスによる考察を行う。「(が)～する」、「を～する」、「を～させる」それぞれの用例数を調べる。
- ② 「を～する」多用の動詞と「を～させる」多用の動詞に分けて、それぞれの「を～する」と「を～させる」の使用環境による相違点を分析する。

4. 分析

「を乾燥させる」

- (10) みかんの皮を風通しのよい日陰に1週間くらい置いて乾燥させる。
(井上 昌次郎(著)/谷津 三雄(著) (1998) 『40代、50代から美しくなる生活術』、BCCWJ)
- (11) 検出方法は、まず鮭の頭を乾燥させてから、アセトンで洗うことによって水分と油分を取り除く。
(『テクノマエストロ』 (1999)、BCCWJ)
- (12) かえる時新しいおむつをはかせる前にうちわで扇いで肌を乾燥させる、できてしまったら桃の葉ローションでケア!
(Yahoo!知恵袋 (2005)、BCCWJ)

「を乾燥する」

(13) 施工後に収縮や変形が発生することから、建築物を建てるには木材を乾燥することが必要である。

(『森林・林業白書』(2004)、BCCWJ)

(14) 関東地域の畑地の地表約一m以下に堆積している赤土を乾燥して玉状にしたものです。

(永井 千尋(著)(1990)『東洋蘭の栽培と増殖』、BCCWJ)

(10) (11) (12) のように、「を乾燥させる」は「乾燥」という動作のプロセスを注目している。(13) (14) の「を乾燥する」は乾燥するという結果出来事を注目している。

このような傾向も「実現する」例にも見られる。

(15) 00 さんが、その夢を実現するまでの努力や苦労を紹介。「夢を実現させるには具体的に考え、動き出すことが大切」と経験談を話し

(『市報とおかまち「だんだん」』(2008)、BCCWJ)

例 (15) の中で「を実現する」と「を実現させる」両方ともある。「を実現する」の後に「まで」がついているので、「夢がすでに達成している」という結果の状態が想定しやすい。「を実現させる」の後に夢を実現させるために何をやるべきかという紹介であるので、「夢を実現する」という動作のプロセスに注目していると考えられる。

5. 今後の課題

自他両用漢語動詞「する」と「させる」の違いはその動詞が対応する中国語の用法との関係を今後の課題としたい。

参考文献

- 永澤済 (2007) 「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』第3巻4号
山田一美・山田勇人 (2009) 「漢語サセル動詞に関する一考察」大阪女学院短期大学紀要 39号
金英淑 (2006) 『「VNする」の自他交替と構造—現代日本語の漢語動詞の分析—』筑波大学